

畫
卷
百
卷
為
四





卯花や膳出たり郭云

吳文



七十三

卯花

花ごらんけまきむらさきの具はてけを葉
編るまの汁よりうほをぬく

杜鵑

杜宇 子規 子雋 蜀魄
鷓鴣 鶺鴒 鶺鴒 買鏡
時鳥 霍公 別都頓宜壽

昔よき歌はるるをうほ背中よりうほみくま
はるるにて府をけいごらんをうほこらんを
うほまきにて府をうほごらんをうほ風切尾
うほまきにて府をうほごらんをうほ

七十四

雞冠

雞頭花

花赤い肉色と朱をほろやけいてついで
葉いごらんをうほごらんをうほごらんを
うほごらんをうほごらんをうほごらんを
うほごらんをうほごらんをうほごらんを
のけりりあやまきわいごらんをうほ

鷓鴣

昔よき歌はるるをうほ背中よりうほみくま
はるるにて府をけいごらんをうほこらんを
うほまきにて府をうほごらんをうほ風切尾
うほまきにて府をうほごらんをうほ

七、ハシロビロ、ハシロビロ、ハシロビロ

一九



連翹ハシロ、ハシロ、ハシロ

女羅架

琴

松

七十五

連翹

花さくさくのはやしきまのけけと
思れ〜

瑠璃

翠雀

紫のまきいて路より背中こえぞうはてま
とり風切尾まきいてはまじい波まきをね
まはもま下後ごまんは月もまごご

七十六

風蘭

花ごらんけとまふ合葉土葉細まけま
枝葉ろくまけけま白緑けままのけ
まけのまごご

啄木鳥

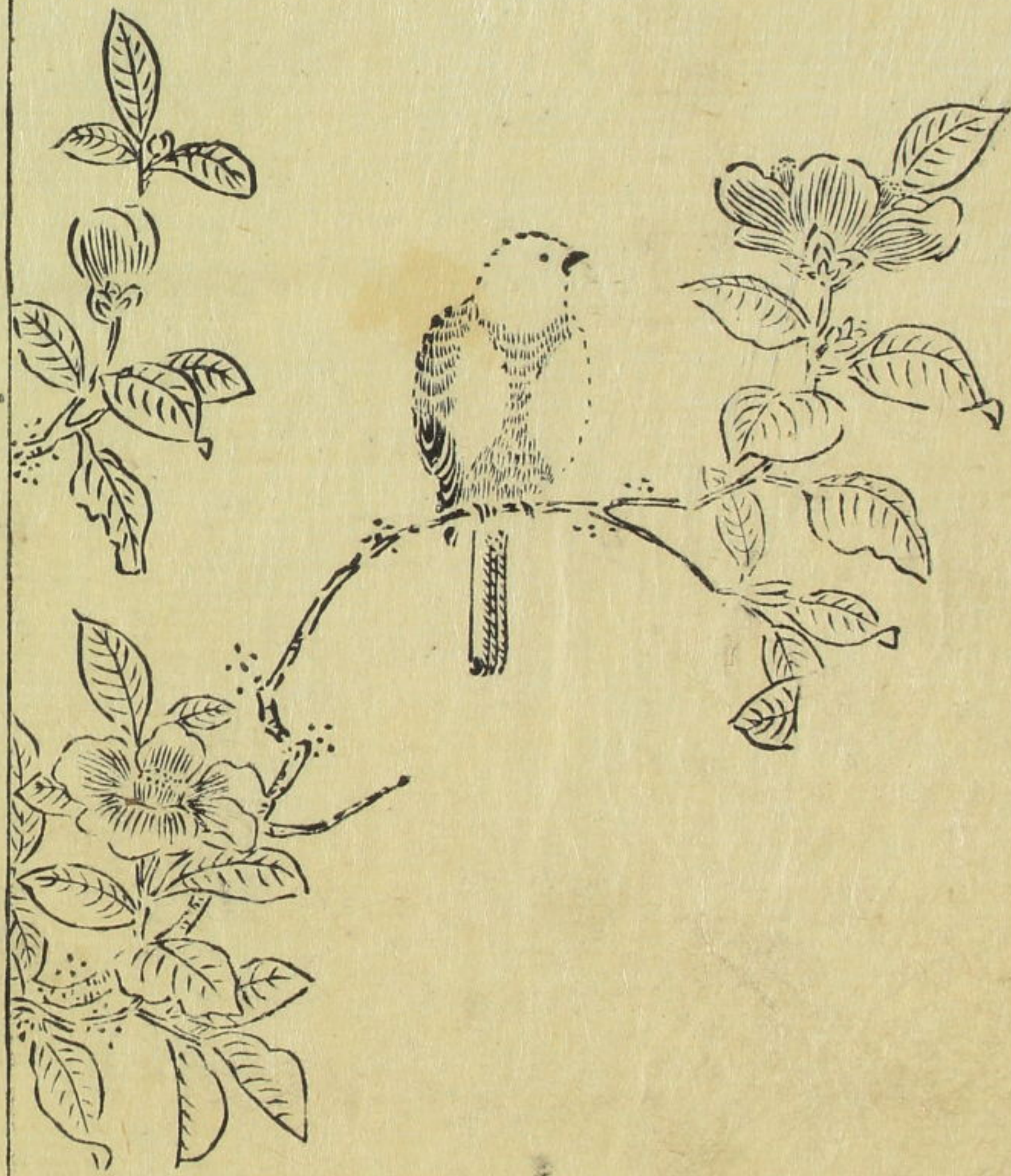
鴉

は南まらぬりこまごづまごにまぬく朱
のまけけのまけけま合葉まま
まごごまけけまけけまけけま
まごごまけけまけけまけけま



啄木や青けけけ〜や因書清

伴 輅



畫工精妙沙羅樹
欲問涅槃真實相

碧鳥如生豈不翹
堪憐喋背絕鳴嗽

玉宗千乘

七十七

沙羅雙樹

花ごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
まごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
けごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
ごらんをまごらんを

七十八

牽牛花

朝良

花ごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
まごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
けごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
ごらんをまごらんを

七十九

碧鳥

雀の尾をまごらんをまごらんをまごらんを
まごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
けごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
ごらんをまごらんを

八十

雀の尾

雀の尾をまごらんをまごらんをまごらんを
まごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
けごらんをまごらんをまごらんをまごらんを
ごらんをまごらんを

日よりのやまのけしき

千雀



ほりりい首余深山のけしき

少年
金助

七十九

百合

強瞿

赤白あり赤いはれは花肉を赤にして白を
白にしては果して赤を赤にして白を
付る白は白く人の血を赤にしては赤く
して赤くは血を赤くして白くを赤く
葉の赤くは葉の汁は赤

深山類白

深山類白は深山の深谷中にて上り来
るとりけ風物等は住まぬ下後合葉生
うけとらんまもまもまも

八十

仙臺秋

花合葉土葉緑を葉の汁にしては
枯木枝葉をわけて赤く入る

鳥

深山類白の四月は秋は秋は秋は
とらんとりけ風物等は住まぬ下後合葉生
うけとらんまもまもまも



喜鳥、常一住、春、沙鶏、岑水



青鳩とくわくわく幼く紫菜うか

玄詞

八十一

芝蘭

花を年の具わりと名をけはてうりるまは
はよべー葉こごん保青うりるはゆきまの
けし

八十二

青鳩

花を年の具あやがまはつごんがはちが
このごん入べー花の保りごんごんま
うすうすうすごんごんごんごんごん
をうべーごんごん保青あけりるごん
トんまごんごん葉保青まのけりるま
くはゆきまごん

此葉はくわくわくは目の内朱すくはより想待
うすうすうすごんごんまはけりるごんごん
まのけりるままはけりるごんごん
くはゆきまごんごんごんごんごん
まのけりるまごんごんごんごん
目の内朱ごんごんごんごんごん

百種鳥巻四

山鳥や枝のたぐり元安寺

蓮東



母のふのわれまふりまふり

小寺
菊磨

八十三

海棠

花は白くはるばる多き其花は白くはるばる
 花の白くはるばる多き其花は白くはるばる
 花の白くはるばる多き其花は白くはるばる
 花の白くはるばる多き其花は白くはるばる
 花の白くはるばる多き其花は白くはるばる
 花の白くはるばる多き其花は白くはるばる
 花の白くはるばる多き其花は白くはるばる
 花の白くはるばる多き其花は白くはるばる

黄鳥

昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱

八十四

萩

白はあかりはるばる其花は白くはるばる
 白はあかりはるばる其花は白くはるばる
 白はあかりはるばる其花は白くはるばる
 白はあかりはるばる其花は白くはるばる
 白はあかりはるばる其花は白くはるばる
 白はあかりはるばる其花は白くはるばる
 白はあかりはるばる其花は白くはるばる
 白はあかりはるばる其花は白くはるばる

鶉

昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱
 昔年々の鳥をよごり見ると其鳥熱

大みけのりたふり侍鳥

蘭洲





かきや横より寝ふゆりの木

來丸

八十五

よんごゆりの木

花あやの具あやのほ日節を先ごらん
くまさ合若土あやのくま

鶯 鶯

鶯のうさぎごらんをさして府を突勢男
うさぎごらんはよみ朱じごらんが朱さうて
も虫風切さしてうらごらんうさぎごらん
せうて府をさしてごらんうさぎごらん

八十六

木槿

舜英

花あやの具あやのほ日節を先ごらん
節あやのほ日節のけりほをまうさう
まのけりうらほ節をさう

きんぐら

鶯のうさぎごらんは日節を突勢男
うさぎごらんはよみ朱じごらんが朱さうて
も虫風切さしてうらごらんうさぎごらん
せうて府をさしてごらんうさぎごらん

まじりやか暖海傳授木槿垣

郁



まじりやか暖海傳授木槿垣

齊貞



子ら限みかひ考の月白小

丘口

八十九

柏かしわ 又 榭 樸椒 大葉棟

葉縁青葉のけしりくはゆきつり枯
る候各葉生之葉どくまゆひをへい

九十

木芙蓉きぼけ

葉白二色あり花多やの具多やの候日
節をのぼりてごらんうとく候りつがこ
うてふはゆき葉のけしりくは葉縁青葉草の
けしりくは葉をへい

繡眼ちどり 目白

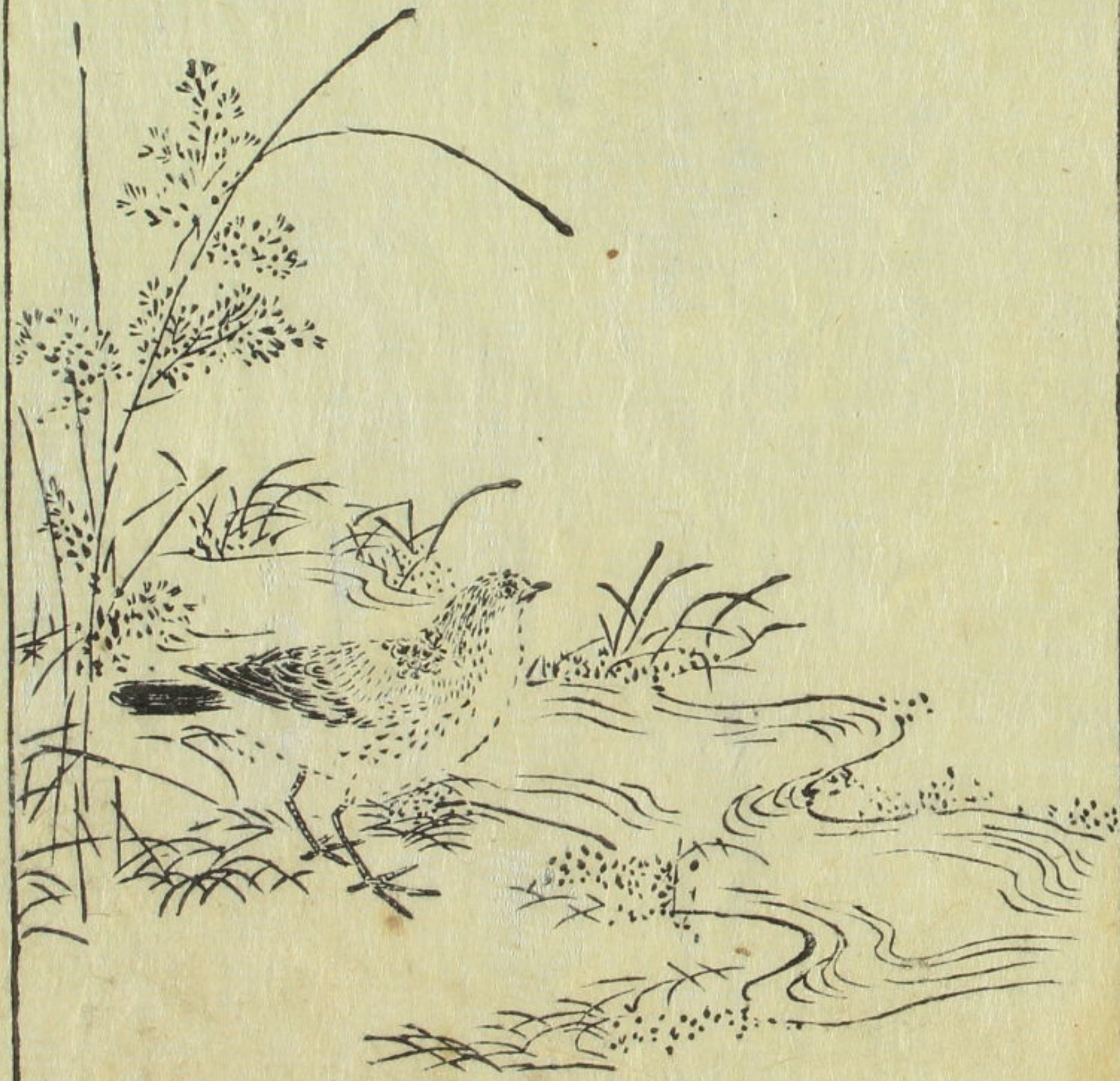
葉縁青葉のけしりくはゆきつり枯
る候各葉生之葉どくまゆひをへい

鶺鴒あひろ

葉縁青葉のけしりくはゆきつり枯
る候各葉生之葉どくまゆひをへい

雨少く入るに花の葉も

加商



かろやうなるもの羽渡

拳石

九十一

刈萱

花の口より下竹をまきまきのけけま小草
まへん合いつれも 新あまうくはまべー

白雲雀

昔昔の奥の山より 妙祥とすまきくは
とまれけけけ 風物こそなして 二守ねふりて
ふんくの色 白毛とて 後白とてふんくま
白毛とてまきとて 所をひる

九十二

柿

花ごらんまま先よまきくの白いとけりて
ち白根まきゆきまき乃けけりてはま
まとんべー

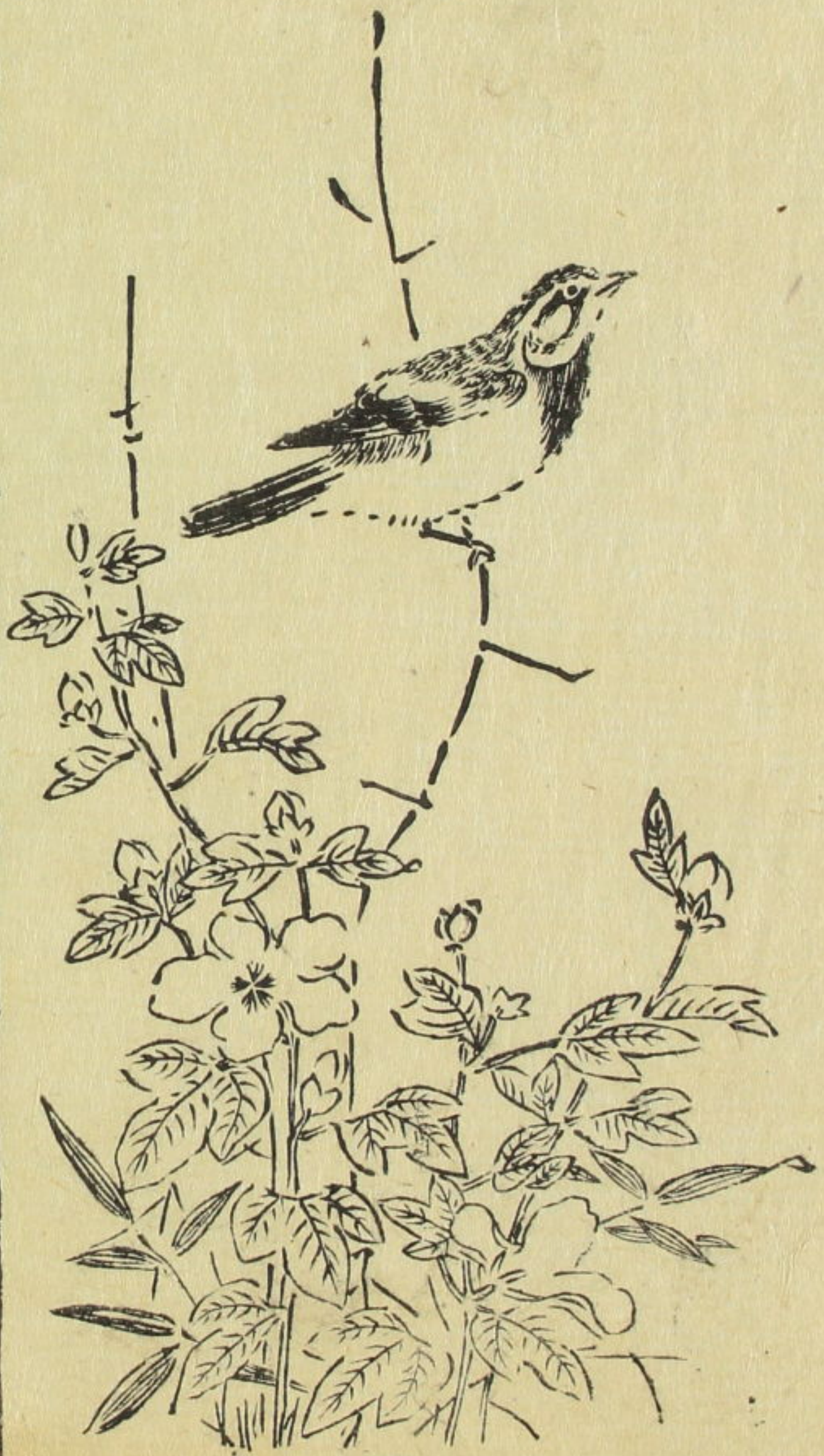
山鶴

昔昔の山に 肉色上まきくはまきくく
いごまき白く 頬まきくまきくまきく
くんで 容か けけいごまきくはまきく
けけけけまきくまきくまきくまきく
まきくまきくまきくまきくまきく
尾まきくまきくまきくまきくまきく
のまきくまきくまきくまきくまきく

雨を乞ねる鳥とてけり 材乃也

沾 緑





柳 覽ありとぬのこころのゆたけの丸 千舎

九十三

本綿

古終 日本民間所作是也

花をうらうらとほきく朱中の一糸をさそまをさ
ごらん竹まきうてる白綿を本綿まきうらうら
糸をまのけしとまご

唯紅鳥

唯紅鳥はさきさきのしらより春中まきうらうら
すももはと三糸まきうらうらけ目のしら一糸を
あわりのごらんまきうらあご赤く朱れまきうら
風初尾はまきうらまきうらごらんまきうら
まきうら

九十四

藤

蔓草 黄環

此白二色ありたれと地わされりあやうら
よらんごらんけまき白綿を本綿まきまの
けはまきあま合まきまきまきまきまのけ
糸を二ごらん綿まきまきのまきうらうら
蔓まきまきうらまきけまきまきま

燕

乳

燕は春中まきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきまきま
ごらんまきまきまきまきまきまきま

燕 此鳥也 一 乃 燕 之 房

蕙 洲



わんまやうの梅のつぼみ

玉牙



むの囀るる寝惚へり言也

柳琴

九十七

風車 鉄線花

花わさねたりあやうはこんぞうげん
菊のぶくちをさくはあやうり
葉こぶん飾りものけはまきまき
はまかり

九十八

せうりん

花さくもの具き飾りつれはけはまき
ろくせうもれけとをまきまき

川魚鵜

あさきくはもくさくさき春中後た
あさきの具き毛去風切はまき
ごらんは尾をけり月のあさき
あんまき

せうりん

花さくもの具き飾りつれはけはまき
ろくせうもれけとをまきまき

冠の松のやうな鳥のやうな

野



嶺くこゆりしと木兔の登園

嶺二

PNW

九十九

辛夷 杞棣

花ごらんくはごらんゆきうてかきりけ
葉のゆきまきりくまきりけきりけ
木うらうらまきりてこわらうらうら

木兔

鷓鴣 角鴮 老兔
逐魂象

花ごらんくはごらんゆきうてかきりけ
葉のゆきまきりくまきりけきりけ
木うらうらまきりてこわらうらうら

百

枇杷

花ごらんくはごらんゆきうてかきりけ
葉のゆきまきりくまきりけきりけ
木うらうらまきりてこわらうらうら

鴉 梟

花ごらんくはごらんゆきうてかきりけ
葉のゆきまきりくまきりけきりけ
木うらうらまきりてこわらうらうら



うらうらまきりてこわらうらうら

白雲

百七鳥卷四

九二

